

(公財) 日本ヘルスケア協会から

発行：日本ヘルスケア協会 事務局

今回は、4月11日発行のニュースリリースNo.82以降の動きについてご報告いたします。

1. 第1回「ヘルスケア研究助成」採択研究が一斉にスタートしています。

4月5日(水)午後の選考委員会で「ヘルスケア研究助成」に採択された5件については、予定通り、4月17日(月)午後1時にJAH1ホームページ上に公表。申請者には直接郵送通知し、同時に研究実施の承諾書を受領した後、4月下旬に助成金を交付して5月1日(月)、研究期間を一斉にスタートしました。(終了は来年4月末)今回採択された研究は次の5件です。

- ①「小児の医薬品誤飲防止を目的とした新規PTP包装ならびにピクトグラムの創生に関する基礎的研究」申請者：下枝貞彦 殿(東京薬科大学薬学部 臨床薬学教室)
※シニアフレンドリーな医薬品包装の小児に対するリスク防止の観点から、チャイルドレジスタンス(CR)包装や誤飲防止ピクトグラム(PG)の普及を図る。
- ②「地域在住高齢者を対象とした口腔セルフケアを介したフレイル予防に関する研究」申請者：井筒深紅 殿(北海道大学大学院保健科学院基礎看護学分野)
※フレイル予防のために重要な口腔機能の維持に関して、従来手薄であった口腔セルフケアによるフレイルへの影響を横断的に研究する。
- ③「白米へのケイ素施肥の健康価値に関する研究」申請者：日本ヘルスケア協会・土壌で健康推進部会(部会長・上杉 登 殿)
※ヒトによって必須なケイ素に関して、ケイ素施肥による白米のケイ素含有が未解明なところが多いため、その精緻な分析によって米食の新たな健康価値を確認する。
- ④「白岡市ひまわりプロジェクト」申請者：福田英二殿(白岡市地域包括支援センター・ウエルシアハウス)
※白岡市及び蓮田市の遊休農地を活用して、地域の住民・子供たちとともに栽培育成し、街づくりに貢献すると同時に、「産・官・学・民」連携事業の公益モデルを構築する。
- ⑤「高齢者の下肢位相角の低下は加齢に伴う特異的な変化なのか～健康寿命の延伸に向けた効果的な介入点の検討に向けた取り組み」申請者：本間大介殿(新潟万代病院・リハビリテーション科)
※高齢者は下肢位相角(Phase angle:PA)が低下し、バランスや歩行機能に影響する。広範囲なPA測定データの分析によって健康寿命延伸に向けた有効な介入点を探る。

2. カザフスタン視察団の一行が来所されました。

4月24日(月)午前、中央アジアの国カザフスタン共和国から、日本の「カイゼン」研修を目的に組織された12名の視察団が来所されました。カザフスタン共和国は石油、天然ガスなどのエネルギー資源、鉱物資源に恵まれた資源大国。ウランの生産量、クロムの埋蔵量は世界一を誇っています。一行は、同国最大手のクリーニング企業、製薬・化粧品・プラスチック製品製造業の創業者・経営者等から構成され、同国の経営コンサルタント協会と関係の深い「リーム中産連」の世話でわが国の「カイゼン」を視察に来日されたプログラムの最後に、成長著しい日本のヘルスケア産業の現状の研修に来所されたものです。弊協会では今西信幸会長がヘルスケア産業の重要性を講じるとともに、生活者によってドラッグストア業界が支持されてきた歴史を簡単に振り返られました。約1時間半の滞在の後半には、視察団の面々から活発な質問が寄せられ、協会と国との関係、ドラッグストア上位チェーンのシェア・主力商品とその理由等々の質問が次々に寄せられました。

